

吟翔

第5号

発行者
ユニバーサル邦楽吟詠会
会長 関根峰月

発行責任者
事務局長 田中竜真
〒324-0035
栃木県大田原市薄葉
1998-210

(題字：影山白雲)

新春雑感

ユニバーサル邦楽吟詠会副理事長
中部地区本部長 川嶋絢寶

皆さん!! 明けましておめでとうござい
ます。希望の年、平成三十年がやって参り
ました。今年の総会は浜松地方で行う事にな
り、今、いろいろとプランを練っておりま
すので、お楽しみにお待ちください。

さて小生は、浜松で生まれ、浜松で育ち、
吟の道に入ってから四十六年が過ぎました。
詩吟を習い出した頃は、伴奏楽器などな
く『口伝』でした。まるで雲をつかむよう
な気持ちでした。そのうちに詩吟には音階が
あることがわかり、霧が晴れたようにいろ
いろと吸収することが出来るようになってま
した。

その当時はポリドールとコロムビアのコ



筆者、右側

のよう
の講評は、的確で非常に参考になりました。
に練習しました。特に戸室清山先生
ンクールがあ
り、両方に何回
も挑戦しまし
た。東京でも大
阪でも、どこへ
でも行く若さ
と情熱があり
ました。気狂い



吟道に精進し、研鑽を積み重ねるうちに、
吟詠には音楽性と文学性の二つの要素があ
ることに気付きました。ユニバーサル邦楽
吟詠会が目指している吟も、まさに軌を一
にするものであります。

私たちはこのすばらしい芸術を後世に伝
えて行く使命があります。

本年はユニバーサル邦楽吟詠会創立四十
五周年の記念大会の年でもあり、理想実現
の為に、皆さん共に手を携えて歩んで参り
ましょう。

歴史とロマンの島吉岐を尋ねて

九州・山口地区本部 布谷 水苺

7月末の土日を利用しユニバーサル邦楽吟詠会主催の吟行会で吉岐を訪れました。九州の最大都市福岡市の埠頭に集合し9時発のフェリーに乗船12時30分に吉岐に上陸しました。私と夫・水苺は早速、勝本漁港に向かい釣りを開始、持参のクーラー一杯の魚を釣り上げ、明日も釣れることを確認し、皆が待つ民宿に向かいました。栗山先生・江藤先生・川崎先生・岡垣町長他層々たるメンバー20名の方々は吉岐の観光をされ既に宿に到着されていらつしやいました。

早速、花の宴が江藤先生の案内のもと、栗山先生、町長さんのご挨拶に続き川崎先生の乾杯の音頭で開かれました。

卓上にはアワビ、ヒラメ、イセエビ、イカなど生きのいい刺し身がてんこ盛り、大きなカサゴのから揚げ、巻貝の塩ゆで、サザエの壺焼き、酢の物などが所狭しと並んでいました。その上、途中で採りたて生ウニ、吉岐牛が出され我が目を疑うほどでした。

冷えたビールで喉を潤し、美味な肴に舌鼓を、そして愉快な話に花が咲き時の流れに身をまかせ愉快なひと時を謳歌しました。翌日は先ず勝本の釣り場（波止場水深約

15メートル）に集合、波止場には大きなイカ釣り船が停泊、その隙間から鰯釣りを開始しました。10センチ位の小あじから35センチ大の鰯等が次々に釣れ、波止場は釣る人、魚を外す人、料理をする人、酒を飲む人、世話をする人でごった返しのお祭り騒ぎです。

栗山先生は係留船上のイカ釣り漁師さんと話が弾んだようです。漁師さんからイカの刺し身が差し入れされ、皆舌鼓を打っていました。

江藤先生は途中で釣りから魚の処理に移り、町長さんは釣り人が乱した釣り糸の処理も対応されていました。

それぞれの荷物（釣果）が十分になったところで釣りをやめ、吉岐の名所猿岩等を尋ね天然温泉・湯の元の国民宿舎「吉岐島荘」で温泉に浸かり、昼食をとり休憩し、老体を労わりました。（この吉岐島荘は天皇陛下が皇太子の折、来島し宿泊されたところですよ。）

その後、土産店に立ち寄り吉岐名産品を買い求め、名勝左京鼻を巡り出港地で16時15分発博多行フェリーに乗船しました。海上は油を流したように穏やかでした。夕陽が我々を優しく送ってくれるようでした。

楽しかった2日間でした。参加された皆さん本当にありがとうございました。

吉州に遊ぶ 松口 月城
酒芳し肴良し」人又善し
吉岐の「情緒 想い 陶然たり
玄洋 縹渺」欄外に見る。
一酔」一吟 初夏の 天」





酒芳肴良人又善 老岐情緒想陶然
玄洋縹渺献欄外 一醉一吟初夏天

【語 釈】

老州 老岐の旧呼び名。

陶然 酒に酔って心地よい様。

素晴らしさにウツトリしている様

玄洋 玄海の海洋。

縹渺 果てしなくひろいさま。

ユニバーサル邦楽吟詠会 吟詠オーディション

九州・山口地区大会開催さる

和田心陽

去る七月十七日、海の日に、「大宰府館まほろばホール」に於いて、第四十四回ユニバーサル邦楽吟詠会吟詠オーディション九州・山口地区大会が開催されました。

会場となった大宰府館まほろばホールは、大宰府天満宮の参道から少しばかり脇道に入ったところに位置し、玄関はまるで芝居小屋のような風情を見せ、まさに大宰府の地にぴったりの建物です。

大会には特別審査委員として、ユニバーサル邦楽吟詠会総本部長の関根峰月先生、同じく総本部顧問の宇城良雄先生のお二人にお出で頂きました。

伴奏は、尺八を邦楽尺八研究会主催の山本虚風先生に、お琴は生田流の横馬場孝子先生にお願い致しいけなりました。幼少年の部に始まり、合吟の部、高齢者の部、一般の部と合わせて百数十名の方々がオーディションに参加されました。

私も初めて出場した際に、峨眉山月歌でしたが、承句の『入りて』と吟じなくては所を『入って』と吟じてしまい、失格してしまいました。舞台上に上るまでは、その所を間違えないようにと何度も頭の中で言

い聞かせていたのですが、いざ舞台の上で平常心で吟じる事が、いかに重要なことなのか、わかっていてもなかなかできるものではありません。

やはり一回より二回、二回より三回と、舞台の場数を踏むことが大切な事ではないでしょうか。そして最終的には人の心の琴線に触れるような吟ができるようになれば最高だと思っています。

少し話が横道に逸れてしまいましたが、吟詠終了後には審査委員長の栗山聖山先生の講評があり、とても解り易い説明や注意などして頂き、大いに皆様の参考になった事と思われます。

アトラクションでは、仲宗根玄忠先生を始めとする、沖縄宮古民謡、仲宗根玄忠民謡研究所の方々に、三味線や踊りを披露して頂き、会場が大変盛り上がりしました。

日頃の練習の成果を發揮され、全国大会出場の切符を手にした方々、そしてシード権の方々、全国大会では大いに実力を發揮して下さい。又、今回思うような吟ができずに悔しい思いをなさった方々、来年はしっかりと普段通りの吟ができるよう、精進される事を願っています。

九州・山口地区本部
一吟大会結果

【一般一部】

順位	氏名	順位	氏名
優勝	野村信子	優秀賞	香月将隆
準優勝	倉田俊子	優秀賞	小林典子
第三位	飯田普一	優秀賞	山口フサ子
入賞	南里豊治	優秀賞	松津 清
入賞	安藤八千代	優秀賞	福成 潜
入賞	岩永道子	優秀賞	増田静香
入賞	大久保シツ子	優秀賞	山中幾代
入賞	藤野明子	優秀賞	江藤耕一
入賞	吉田和敏	優秀賞	久保久美江
入賞	濱崎美和子	優秀賞	植田洋子
入賞	近藤光子	優秀賞	古賀繁樹
入賞	角田みよ子		
入賞	小玉啓子		

【一般二部】

順位	氏名	順位	氏名
優勝	増田愛子	優秀賞	岡村サチ工
準優勝	柳崎健治	優秀賞	馬場鶴美
第三位	権田武文	優秀賞	前山公義
入賞	瓜生成興	優秀賞	山下恵美子
入賞	森山正三	優秀賞	熊田 満
入賞	矢原聖子	優秀賞	小柳信也
入賞	広中恒雄		
入賞	南里和昭		
入賞	小川ツリ子		
入賞	西山陽子		



新年あけまして
おめでとうございます。
本年も楽しく、
元気に吟道を楽しみましょう。
宇城良雄

謹賀新年

昨年東京地区本部：頂き
まけたご厚情の数々誠に
有難うございました
本年も元氣張りまあのて何卒
ご協力の程宜しく御願ひ
申し上げます

平成30年 正月

東京地区本部

山崎伸雲
五月女神蘭
大和田克風

写真で見る全国吟詠オーディション



↑ユニバーサル賞は岸本弘美さん（福岡）に贈られました



↑ユニバーサルミュージック合同会社から生花を頂戴しました



↑優勝の樋口信一さん（佐賀）、準優勝の鈴木美代子さん（東京）、第三位の岡健次さん（福岡）（左より）



↑未来を担う幼少年の入賞者です。優勝の松原みらいさん（大分）、入賞の城島陵誠さん（佐賀）、岡義貴さん（佐賀）、中島孝太郎さん（佐賀）。よく頑張りました。来年も出てね。

→ 十傑の皆さんです。吟題は抽選！
運・不運があったかな？



九州・山口地区本部吟詠講習会



編集後記

会員の皆様から、沢山の原稿を頂戴し、第4号には全てを掲載することが出来ませんでした。広報担当としては嬉しい限りですが、原稿を出して頂いた方には申し訳ありませんでした。やや時間が経過してしまい、タイムリーな広報ではなくなつてしまいました。どうかご理解願います。

今回は総本部役員の年賀状を掲載してみました。全員分を掲載しているわけではありませんが、ご覧いただければ幸いです。引き続き、皆様からの原稿をお待ちしておりますので、どんな事でも結構ですので、ご投稿ください。(編集子)

(二)ちらにどうぞ ↓ tanaka_ryuushin@yahoo.co.jp

謹賀新年

隠居生活二年目に入りましたが、まだやりたいことの半分もできていません。

微力ながら、ユニバーサル邦楽吟詠会の運営に力を注ぎます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。

平成三十年元旦

〒324-0035

栃木県大田原市薄葉一九九八ノ二一〇

田中 竜真

